

各関係機関の長  
各病虫害防除員 殿

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター所長

## 平成 2 4 年度病虫害防除情報第 5 号

育苗床において発生した苗いもちの本田への持ち込みが確認されています。  
各地域の発生状況を把握しながら適切な防除指導をお願いします。

**県内各地で苗いもちの本田への持ち込みが確認されています。  
定植時の育苗箱施薬を実施し、適切な防除を行いましょう。**

1. 作物名 普通期水稻

2. 病虫害名 いもち病（葉いもち）

### 3. 発生状況

- (1) 県内の育苗床において苗いもちの発生がやや多くなっており、本田への持ち込みが確認されていることから、いもち病の発生の拡大が懸念される。
- (2) 6月中旬の巡回調査における葉いもちの発生面積率は 5.0 %（平成 1.1%）、発病度は 0.09（平成 0.04）で、いずれも平成に比べやや多である（表 - 1）。
- (3) アメダスデータを利用したいもち病発生予測システム（BLASTAM）によると、6月に入って県内各地で感染好適日が複数回出現しており、今後も発生の拡大が予想される。
- (4) 向こう1ヶ月の天候は、前半は平成と同様に曇りや雨の日が多く、気温は平成並または高い確率がともに 40 %と予想されている（鹿児島地方気象台 6月22日発表1ヶ月予報）ことから、病徴の進展に好適であり注意が必要である。

表 - 1 6月中旬の葉いもち発生状況

区分	調査地点数	程度別発生面積率（%）			発生面積率（%）	発病度
		甚	多	中少		
全県	40	0.0	0.0	0.0 5.0	5.0 (1.1)	0.09 (0.04)

( )内は平成値

### 4. 防除上の注意

- (1) 育苗期の発生に注意し、本田への持ち込みを防止する。
- (2) 育苗箱施薬は、予防的効果が高く、本田での第一次伝染と生育初期の蔓延を防止するので必ず実施する。
- (3) 補植用の置き苗は本田での伝染源となるので、補植が終わったらただちに処分し、ほ場に放置しない。
- (4) 移植時に育苗箱施薬をしていないほ場では、葉いもちの早期発見に努め、初期防除を徹底する。育苗箱施薬を行ったほ場でも、薬効が切れた後に葉いもちの発生が多くなる場合があるので注意し、分けつ期までに発生がみられる場合には早めの追加防除を行う。
- (5) 雨の多い時は雨間散布を行い、防除適期を失しないようにする。

### 5. その他

- (1) その他詳細については、西臼杵支庁・各農林振興局（農業改良普及センター）、総合農業試験場生物環境部、病虫害防除・肥料検査センター等関係機関に照会してください。
- (2) 6月1日から8月31日は、農薬危被害防止運動月間です。農薬散布にあたっては、ラベル表示の確認を十分に行い、農薬使用基準を遵守し、危被害防止に努めましょう。

#### 連絡先

宮崎県病虫害防除・肥料検査センター 斎藤  
:0985-73-6670 Fax:0985-73-2127  
ホ-ム^ -ジ: <http://www.jppn.ne.jp/miyazaki>  
E-mail: [byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp](mailto:byogaichu-hiryo@pref.miyazaki.lg.jp)